

木材の
需要拡大

しまねの木”クロマツ”の価値を高める

～ 隠岐マツ材の利用技術開発 ～

研究の背景・目的

クロマツは、”県の木”として指定されているように、古くから親しまれてきた男性的な、県を代表する木です。もともとスギやヒノキと比較して、粘りがあり強く優良な構造材であったマツは、島根マツブランドとして県の内外を通じて人気を博していました。ところが近年の木材価格の低迷により、きちんと手入れされない山が増えてきました。加えて松くい虫の被害が拡大し、商品として日の目を見ることなく枯れています。そこで、隠岐マツの利用拡大を足がかりに、島根マツの復興をめざします。



こうなる前に
早めの利用を!

研究方法

隠岐マツ構造材(梁・桁)の最適乾燥技術の確立
割れ、狂いが少なく、短時間にいい製品として仕上がるよう、木材製品づくりに欠かせない最良な乾燥工程を検討します。



蒸気式乾燥機を用いた木材乾燥

安全・安心の隠岐マツブランド!

隠岐マツの強度性能評価
曲げ強度試験を行い、隠岐マツの強度性能を客観的に評価することで、信頼性の向上に寄与します。



実大強度試験機を用いた強度測定

美しい木目を持った隠岐マツ床暖房

隠岐マツ床暖房対応フローリングの製造技術開発と性能評価
住まいに対する健康志向の高まりから、無垢材を利用した床暖房が注目されています。そこで、隠岐マツが床暖房対応フローリングとして使用に耐え得るよう、各種試験を行って性能評価し、課題を把握します。そして現在の製造工程に対してなるべく負担のかからない、材の厚み、乾燥工程の見直しといった方法で製造技術の開発を行います。



クロマツフローリングの敷設状況

研究成果の活用場面・その他

隠岐島内に多くの蓄積があるクロマツを、構造材や床暖房対応フローリングとして安定的に出荷できれば、隠岐島内のマツ資源の有効利用が図れ、素材生産量の向上につなげることができます。

県内のマツを取り扱っている製材事業体にも応用でき、県下全域に波及することが期待できます。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207 問い合わせ先

所属グループ 木材利用グループ

担当研究者 石橋 正樹(いしばし まさき)
中山 茂生(なかやま しげお)

0854-76-3825

E-mail chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名: 隠岐マツ材の利用に関する研究(研究期間: H21~23)